

進捗状況の概要（1ページ以内）

本事業では「卒業時における質保証の取組の強化」を全学的に行うものである。特に、DPを担保する「多様なスポーツリーダーとしての自覚と実践的なスポーツ指導力の養成」と「段階的かつ継続的なライフ・キャリアデザイン力と社会人基礎力（汎用的能力）の養成」の状況を、学修行動や学修成果の可視化から確認し、継続的に教育改善が行える教学システムを確立することを目指している。

学内の実施体制については、教学担当の副学長の下で、教育企画・評価室が学修成果や学修行動の可視化、教育改善のシステムづくりを関係委員会等と連携しながら進めている。そのようなことから、教育企画・評価室では、教学改善に関連する教務委員会、入試委員会、FD推進専門委員会及びキャリア形成支援室からの委員で構成している。また、教育企画・評価室が全学的な教育改善の取組を果たせるように、大学の運営企画等を検討する運営企画会議に教育企画・評価室長も参画するようにしている。

中心となる取組については、DPに関わる学修成果や学修行動の可視化と学修・教育改善が継続的に行える環境・仕組みづくりである。前者は4つの可視化を行っている。①科目群毎やDPで目指す12の資質・能力に関する授業科目のGPAを可視化すること、②標準化された「汎用的能力テスト（PROGテスト）」を柱とした学修成果を可視化すること、③本事業で開発する「プロフィール型テスト」等を手がかりにスポーツ指導力の学修成果を可視化すること、④学修行動、学生生活や運動部活動を可視化することである。学修・教育改善の環境・仕組みづくりでは、FD推進専門委員会と連携し、授業改善の手がかりとなる「授業評価アンケート」の改訂や学生が学修行動を振り返る「学修ポートフォリオ」の環境づくり（Web学修ポートフォリオは平成30年4月より運用開始）、さらには卒業生からの教育改善課題等を把握する調査の仕組み作りを行った。

取組の成果については、①科目群毎に加えて、ディプロマポリシーで目指す12の資質・能力毎のGPAを可視化したことで、学生・教員ともに授業科目と学びの成果との関係を意識することができ、振り返りや改善策の検討を行えるようになった。②「汎用的能力テスト（PROGテスト）」の学年進行に伴う変容を可視化したことで、学生が自らの社会人への成長を意識することができるようになり、振り返りや改善策の検討を行えるようになった。③開発しているスポーツ指導者のための「プロフィール型テスト」の試行により、指導プロフィールを明らかにするばかりでなく、テストに回答することで学生自身のスポーツに対する倫理観や価値観について自己反省や啓発を促すことができた。④授業外での学修時間の少なさや主体的な学びの取組を可視化し、NIFS-AP News レター等により周知することで、学修行動及び態度の改善や授業改善の一助とした。また、課外活動における部活動の汎用的能力改善への波及についても、約20件事例的に明らかにすることができた。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組としては、学修成果や学修行動に関わる調査、可視化や学修ポートフォリオの運用に関わる人的な負担が軽減できるように、教学システムの改修やWeb上での運用が出来るように環境整備を行った。また、実施費用がかかる汎用的能力テストは、全学年で実施し、効果測定に有益な学年（1年次前期と3年次後期）を選定した。該当学年以外においては簡易テストで可視化する方向とした。

学内外への波及効果については、本事業で開発している「理想的な指導者を基本としたプロフィール型テスト」の開発を通じて、学外者500名の指導者の協力が得られるとともに、その必要性についても理解が得られている。今後、スポーツ指導者養成団体や各大学における教養体育、教員養成、様々なスポーツ指導者の養成や再研修で活用できるものとなるように整備する予定である。